

1 自己評価及び第三者評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2894000534		
法人名	社会福祉法人ネバーランド福祉会		
事業所名	グループホームネバーランド		
所在地	姫路市船津町5271-20		
自己評価作成日	平成29年12月13日	評価結果市町村受理日	平成30年3月14日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉市民ネット・川西		
所在地	兵庫県川西市中央町8-8-104		
訪問調査日	平成30年1月17日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

○ユニット間で自由な往来が可能であり、趣味が合う入居者同士が集まったり、一緒にレクや作品作りをされたりする等、入居者の交流が活発に行えるようになっている。
 ○入居者の健康状態を日々把握し、何か変化があった際には併設施設の看護職員にすぐに相談できる体制になっている。
 ○毎年夏と冬に1階の小規模多機能ホームと合同で行事を行うことにより、入居者の気分転換を図っている。

【第三者評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

法人理念の実践を通し、「ありのままの自分」でいられる場所、「ありのままの自分」を認めることを大切にしている。そのために職員は、利用者一人ひとりのこれまでの生活習慣を尊重した環境や想いを受け留め実践に努めるとともに、利用者との会話や共に行動する中で利用者の言葉にならない想いを汲み取り、時間をかけ向き合うことを大事にしている。時間とともに認知症が進んできてはいるが、利用者のしたいことやできることを優先し、職員はあくまでもサポート役に徹することで利用者の自立を応援している。そんな中、利用者同士のおしゃべりや交流、さらには互いを気遣い支え合う関係性も生まれるなど、利用者の共同生活が営まれている。この利用者の生き生きした姿を通し、事業所としての積極的な認知症の啓蒙活動の推進を大いに期待したい。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および第三者評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人理念である『自由』『創造』『愛』の精神を日々の業務の中で常に意識し、実践に努めている。	法人理念に基づき、「ありのままの自分」を認め、個々を大事にしていくことを目指している。職員には、会議等で個々のケアを検討する中で意識を高め、周知を図っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会の行事や、近隣小中学校の行事に招待頂き、地域の方との交流を図っている。また、毎年開催している秋祭りの際には、自治会の方や近隣住民にも参加を頂いている。	地域の季節行事や、子どもたちとのふれあいは継続して参加交流している。中でも運動会や音楽会への参加は、利用者の楽しみとなっている。主催の秋まつりは恒例となり、毎年多くの地域住民の参加がある。施設合同での避難訓練は、住民と協働で行っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	年に数回法人として民生委員や地域の方々を集めた勉強会などを開催しており、地域の方との交流の場になっている。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一度運営推進会議を開催しており、毎回事業所での取り組みの報告を行っている。また、参加者の家族や、地域の方と意見交換を行い、日々の取り組みに活かしている。	地域代表者からは、地域情報やイベント案内の情報提供があり、参考にしている。家族は、事業所の報告から利用者の様子や状況を聴くことで、日常生活をより知ることができている。法人としてのこれまでのつながりもあり、地域との協力関係は築けている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	グループホーム連絡会や地域包括が主催している会議などに参加し、協力関係が築けるように努めている。	地域包括からは随時情報提供を受け、参考にしている。グループホーム連絡会を通じて情報交換を行うこともあり、必要に応じて相談している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止委員会による会議及び研修を年数回実施し、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	定期的な研修で職員には事前のアンケートを行い、グループワークの中で気づきを出し合い、話し合っている。基本、拘束は行わない方針としているが、フロアの出入りは自由にできない。職員は、利用者の様子を見て一緒に出るようにしている。	閉塞感は避けられないと思われるので、可能な時間帯だけでも利用者が行き来できるように検討いただきたい。
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	業務において困っている事などが無いのか、定期的に職員と話しをする機会を設け、ストレス等を溜め込むことがないように努めている。	不適切なケアにならないよう、常に会議等でケア方針について話し合っている。特にスピーチロックは、職員に注意を促し、意識統一を図るよう努めている。管理者は、年2回の職員個人面談だけでなく、普段から職員の意向や想いを聴くなどコミュニケーションを大事にしている。	

自己	第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(7)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、成年後見制度を利用されている利用者はいない。制度についてのパンフレットは事務所に保管しており家族から質問があった時や職員教育用に使用している。	職員は、資料を通して大まかな制度の内容を理解している。現在、活用者はいないが、管理者は、契約時等、必要に応じて積極的に情報提供していく姿勢でいる。	
9	(8)	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時に利用契約書・重要事項説明書の説明を行いご理解頂いた上で署名・捺印して頂いている。退去時にも再度説明を行い退去の手続きを行っている。	家族からよくあがる入院した場合のことや、重度化や看取りについて、事業所の方針をもとに丁寧に説明している。出来れば見学してもらうことで、事業所の雰囲気にも馴染んでもらっている。家族には、いつでも事業所に足を運んでもらうようお願いしている。	
10	(9)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族に運営推進会議への参加を依頼、来所時に意見を頂いたり入居者の様子を報告を行い信頼関係の構築に努めている。家族より頂いた意見は外出行事等に反映させている。	比較的来訪する家族は多く、その都度、個別に話しをしたり相談を受けるなど、意向を聴くようにしている。個別の要望としては、家族から外出の要望がよくあがるので、行事予定に反映している。	
11	(10)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	申し送りや会議、定期的な職員との面談を通じ管理者が出席する幹部会議での提案と、法人の委員会での会議で提案を行っている。	管理者は、会議等や面談から職員の意見や提案を引き出すよう働きかけている。職員からは個々のケア方法の提案がよくあがり、積極的に活かしている。職員とは普段からコミュニケーションを心がけ、話しやすい雰囲気づくりに努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人理念や運営方針に従って今できる職場環境の改善に取り組んでいる。面談の際に現状でのやりがいや困っている事を聞き報告を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内での認知症研修や外部研修に積極的に参加し機会を設けている。また、面談の際に職員一人一人から自身が学びたい事、目標を聞き研修の際に反映させている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域包括支援センターが主催する事例検討会やグループホーム連絡会に参加し情報交換や交流を行っている。		

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15			○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に家族やご本人から、今までの生活状況について確認を行い、安心して施設を利用して頂ける様に努めている。		
16			○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の生活状況や環境など家族が不安に思っている事や困っている事をお聞きし、ニーズに合ったサービスが提供出来る様に努めている。		
17			○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族の思いと本人の思いを確認しながら介護支援専門員交え、支援の方向性を話し合っている。		
18			○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一人ひとりの残存機能に応じた支援を心がけている。又、同じ時間を共有し、職員とともに生活していると感じてもらえるように寄り添い、言葉かけを行い、一方的な介護にならないようにしている。		
19			○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居者の状態の変化や生活状況等をご家族にこまめに伝えるとともに、外泊や外出などの家族交流を推進し実施している。		
20	(11)		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている	家族、友人、知人と自由に面会していただけるようにしている。また、施設の秋祭りに参加していただいたり、併設施設との交流も随時行っている。	家族だけでなく知人や友人等が気軽に過ごせるよう、職員は声をかけたり、サポートするようにしている。併設施設での馴染みの人との交流を図ったり、地域のまつりや行事に参加して、地元の人との交流機会をつくるようにしている。家族に協力を得ることもある。	
21			○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の性格や状態を日々把握しながら、利用者同士が楽しく関わられるような席の配置にしたり、時には職員が間に入り会話や交流の支援を行っている。		
22			○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去された方の家族が来所して下さったり、お亡くなりになった報告に来てくださるなど関係が継続している。		

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の会話を通して一人ひとりの希望をくみとり、意向の把握に努めている。意思疎通が困難な方には家族との面会時に情報交換を行っている。	普通の会話や表情、利用者間の関係性から汲み取っている。利用者の好きなことを一緒にすることで、想いを把握することもある。意思疎通が困難な場合は、家族から情報を得て反映している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	今までの生活状況や長年の暮らし方など、分かる範囲で家族の協力のもとに把握するように努めている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの生活ペースやその日の状態、状況の応じて対応している。レクリエーションや日常生活動作を通じて現状を把握するように努めている。			
26	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の生活の中で、入居者の気持ちの変化をとらえ、個々にあった介護計画を作成している。	日々丁寧な観察に努め、利用者の状態把握を行い、3か月ごとにモニタリングを行っている。利用者のやりたい事やしたい事が表れた計画となるよう、利用者の想いを反映するよう心がけている。基本は半年毎に見直す但、状態変化に応じて随時見直している。家族の意向も参考にしている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	食事、排泄、入浴などの場面において職員が気づいた入居者の変化を個別記録に記載し、申し送りの際に伝達を行い、介護計画の見直しに活かしている。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	できる限り自宅と同じような環境を作ることにより、入居者の不安感を軽減できるように努めている。			

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29			○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣の小中学校の行事に参加させていただいたり、地域のボランティアの方が施設に訪問して頂いている。		
30	(14)		○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人及び家族に確認を行い、希望する医療機関へ定期的に受診して頂いている。また、かかりつけ医を協力医へ変更された方には月2回の定期訪問診療を受けて頂いている。	利用者、家族の意向を優先し、これまでのかかりつけ医の受診を継続している。主に家族が付き添うが、利用者の状態について口頭、もしくは受診連絡表で共有を図っている。希望により協力医療機関の往診利用も可能である。	
31			○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	体調不良時などの際は、同法人内にある他部署の看護職員に情報提供を行い、適切な指示を仰いでいる。		
32	(15)		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には状態報告書の提供を行うとともに、入院中は状態把握の為、度々面会を行い、医療機関との関係作りを行っている。	入院になった場合は、希望の医療機関に繋ぐとともに、地域連携室とは早めに退院時期等を相談するなど、柔軟に連携を図っている。職員はこまめに見舞って利用者の状態を把握し、安心して治療に専念できるよう声かけしている。早期退院を受け入れる体制も整えている。	
33	(16)		○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族に出来ること出来ないことを説明し、同意のもと、医師・看護師に情報を共有し、支援に取り組んでいる。	契約時に、事業所の方針を説明し納得を得ている。利用者の状態変化や入院等の状態悪化時には、その都度、利用者、家族の意向を確認し、今後の対応について相談するようにしている。利用者、家族が不安を感じないよう、早めに話し合いの場を設けている。	
34			○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時のマニュアルを作成し、同法人の看護職員によるAEDの使用方法や心肺蘇生方の研修を行っている。		
35	(17)		○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を年に2回行い、地域の方と連携して避難が出来る体制を築いている。	年2回、施設合同による訓練を実施している。火元を想定し、利用者も一緒に避難経路の確認を実践に基づいて行っている。法人として福祉避難所に指定されており、近隣住民との協力体制を確保している。	

自己	者第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(18)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者一人ひとりの生活や生活を理解し、把握することで個々に配慮したケアを心がけている。また、気づいた事があれば職員間で申し送りを行い、より良い対応ができるように努めている。	法人の委員会を通じて学び周知に努めている。利用者への声かけの際の声の大きさ、排泄時での匂いについては特に注意している。居室に入室の際には、必ず利用者に確認するなど、プライバシーへの配慮に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者の話を傾聴し、その方の想いや希望の把握に努め、安心して生活していただけるように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ゆっくりとお話を伺い、入居者一人ひとりの生活リズムに合わせた支援を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴前や外出時の着替えの際には職員と一緒に服を選び、入居者の思いに添えるように支援を行っている。		
40	(19)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事前に口腔体操、テーブル拭きをしていただいております。お味噌汁作り等のお手伝いもして頂いている。また、食事前にその日のメニューをボードに記入して頂いている。	併設施設内厨房にて調理されたものを、提供している。炊飯、汁物は、事業所で調理し、利用者は盛り付けと簡単な調理に携わっている。利用者や職員による手作りおやつも、好評である。利用者のお誕生日の手作りケーキも楽しみの一つとなっている。	一緒に同じ物を食べることで、より会話が弾むと思われるので、職員も共に食べる機会を持たれてはいいか。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量は毎食記録を行い、栄養バランスとカロリー計算は法人の栄養士が行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に個々の状態に応じた口腔ケアを行っている。口腔内や義歯の状態に何か変化が見られる際には家族に連絡を行い、歯科受診を行っている。		

自己	者第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(20)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄状況を把握し、トイレでの排泄を継続することにより、自立に向けた支援を行っている。	現在、自分でトイレに行く人と声かけている人の状況は、ほぼ半数ずつとなっている。利用者のプライドを尊重した声かけやその人に応じた誘導を心がけている。当然、同性による対応を前提とし、その都度タイミングをみてさりげなく声をかけている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	栄養バランスに関しては、併設施設の栄養士が管理を行っている。食事以外の点では、日々適度な運動を心がけ、便秘の予防に努めているが、医師の指示を仰ぎながら下剤の使用も行っている。		
45	(21)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	その日の体調やこれまでの生活習慣を考慮しながら対応を行い、週3回の入浴を心がけている。	利用者個々の習慣やペースを大事にするなど、無理強いにならない声かけを行っている。こだわりの石鹸やシャンプーを使用している人、入浴後のコーヒーを楽しむ人、柚風呂などの季節湯を楽しむにしている人など、それぞれの楽しみを大事にしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室の出入りは自由にしており、いつでも休んでいただけるようにしている。また、排泄間隔を把握し、トイレ誘導を行うことにより、安心して眠って頂けるように支援を行っている。リネン交換は週に2回行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の管理は管理者が行っている。薬の内容や効能については個人ファイルに詳しく記入しており、変更があった際は都度職員に申し送りを行い、情報共有に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	気の合う方と同席して頂いたり、入居者同士が集まって将棋を楽しまれたりしている。また、洗濯ものたたみや掃除等、それぞれが何か役割を持って日々の生活をおくって頂いている。		
49	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	入居者の希望を伺いながら、季節に合わせた日帰りでの外出や外食を行っている。	利用者からの希望をできるだけ尊重し、外に出る機会を持つようにしている。冬の穏やかな日和の時に、希望に応じて近隣を散歩したり、気分転換にドライブに行ったり、個々の要望で外食に行っている。家族と外出する人もいる。	

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50			○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理に関しては家族にしておいており、外出や外食等の行事の際には施設が立替を行っている。		
51			○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の取次ぎなどを行い、家族との交流の支援を行っている。		
52	(23)		○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節を感じられるような壁面カレンダーを創作していただいたり、テーブルやソファの配置を変更し、ゆとりを持って広くつろげる工夫している。	リビングは、2ユニットが並列になっており開放的である。それぞれにテーブルや椅子、ソファの配置を利用者の状況や動線に応じて柔軟に配置するなど、一人ひとりが居心地良く過ごせるよう工夫している。冬でも窓からの日差しは明るく暖かい。	
53			○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	定期的に席替えを行うことにより、利用者同士の交流支援を行うとともに、気分転換を図るように工夫している。		
54	(24)		○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	今まで自宅で使用していた家具・備品などをお持ち頂くことにより、以前の生活環境に近づけ、居心地よくすごしていただけるように工夫している。	利用者や家族の意向を聴きながら、できるだけ馴染みの物を持ってきてもらっている。置き畳を敷くなど和の設えでスリッパを脱いで過ごしたり、馴染みの筆筒やテーブルや椅子を持ち込んだり、ラジオを聴くのを習慣にしている人など、思い思いの暮らしを楽しんでいる。	
55			○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの場所を分かりやすく表示するとともに、フロア内については動線の確保を行い、安全に移動していただけるように工夫している。		